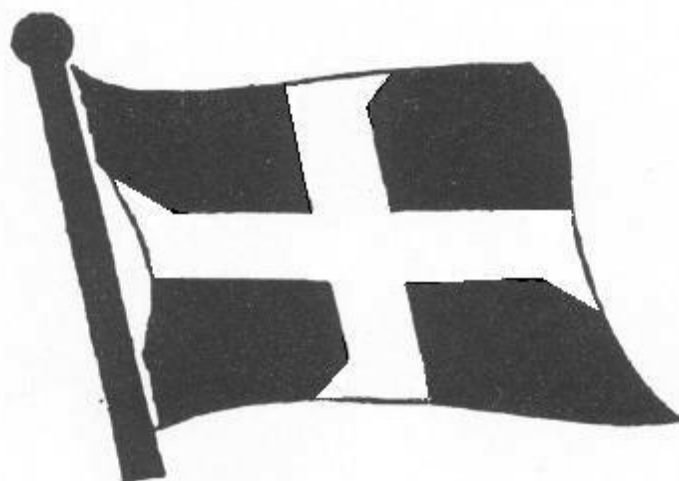


蒼穹 NEWS

NO.6

東大戦総括号

平成 30 年 10 月 2 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶、女子主将挨拶、監督挨拶
- 2 東大戦結果
- 3 東大戦詳細
- 4 東大戦 OP 結果
- 5 応援にお越しいただいた OB・OG の方々
- 6 新主将挨拶
- 7 新幹部紹介

1. 主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

主将挨拶

去る9月24日に、山城総合運動公園にて東大戦が行なわれました。結果は男子が総合優勝、女子が2位となり、目標としていた男女総合優勝を果たすことはできませんでした。昨年、男女総合優勝を果たした喜びを今年も味わいたかっただけに、この結果を非常に悔しく思います。男子は昨年の東大を圧倒する試合とは打って変わり、最初から最後まで接戦の中での試合になりました。うまくいった種目もそうでない種目もありましたが、部員全員が集中を切らすことなく最後まで勝利を目指し、接戦を制したことは今後の対校戦へ向けて良い経験になったことと思います。しかし東大は、昨年の大敗から今年は善戦するレベルまで成長したと意気込んでいることでしょう。来年はさらに強くなると思います。2連覇に油断することなく全員がしっかり力をつけていってほしいと思います。女子は勝ちきるところは勝ちきり、同点に持ち込むところは持ち込んで耐えるという少しのミスも許されない試合を要求され、大きなプレッシャーの中でほぼ理想に近い得点を獲得することができたことは素晴らしいことだと思います。しかしこの2点の差は、東大のスーパーエース2人に圧倒された差でもあると思います。来年もまだ1人が残り、京大側は4回生が抜けて人数がさらに少なくなります。そこで勝利をするためには何が必要なのかをしっかりと分析してほしいと思います。

この東大戦をもちまして、三神(3)主将、後藤(3)女子主将率いるチームに代替わりしました。来年の京都大学陸上競技部の更なる飛躍に期待しております。

最後になりましたが、この1年間蒼穹会の方々には大変お世話になり、本当に感謝しております。来年以降の後輩達にも変わらぬご支援、ご声援のほど宜しくお願い致します。

京都大学陸上競技部主将 安藤 滉一

女子主将挨拶

先日行われました東大戦、目標の男女総合優勝は叶わず、女子が僅差で優勝を逃すという結果となりました。

小野(4)のPB更新や林(4)のPBタイなど、4回生の意地が見られた素晴らしい競技が多くありました。また100m、走幅跳の3位争いでは下回生が接戦をしっかりと勝ち切り、優勝への望みを繋いでくれました。しかし最終的には、互いにぎりぎりの戦いのなかで、相手チームのエースの対応力がほんの少し上手であったと感じます。支えてくださった方々に勝利をお見せできず、本当にやるせない、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

この東大戦をもちまして、駅伝を控える長距離を除き、幹部が交代致します。これから一年間チームを率いるのは、女子主将の後藤を中心とした 3 回生です。関西インカレで勝負できるチームになること、そして七大戦東大戦で目標を達成することを目指し、より一層チーム一丸となって日々精進してくれるものと確信しております。

最後になりましたが、女子主将を務めさせていただいたこの一年間、蒼穹会の皆様方からのご声援に何度も支えていただきました。当日も多くの蒼穹会の皆さまにお越しいただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも、現役部員への変わらぬご支援、ご声援のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部女子主将 横山 優花

監督挨拶

男女総合優勝を果たすべく臨んだ東大戦。男子は優勝を果たしましたが、女子は 2 点差というわずかな差で優勝を逃しました。

男子は序盤 400mH で流れをつかみ損ねかけましたが、100m の加藤(2)、1500m の木村(2)らがランキングを覆して 1 位を取りいい流れの中で試合を展開してくことができました。また、4 回生の意地とも言える素晴らしい試合を見せてくれた 4 回生も多く、各々がしっかりと自分に課せられた役割を果たしてくれたことがこの結果につながったのだと思います。女子に関して、悔しさの残る試合となりました。ランキングをよく守り続けていましたが、わずかな綻びが結果を左右してしまった形です。東大側の 2 大エースが強かった、で終わらせるのではなく、しっかりと自らに足りなかったところに目を向けていけば必ず来年は雪辱を果たすことができるでしょう。男女ともども、自分に向き合い続け来年の関西インカレで目標を達成できるように全力で取り組んでほしいと思います。

当日は本当に多くの先輩方に応援に来ていただきありがとうございました。今後とも、変わらぬ御支援、御声援のほど、宜しく御願ひ致します。

京都大学陸上競技部監督 紀平 直人

2. 東大戦結果

第 91 回東京大学・京都大学対校陸上競技大会

総合優勝 京都大学（通算・東大 32 勝京大 59 勝）

総合得点

京都大学 198 点ー 東京大学 174 点

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	京大の得点	東大の得点
100m	加藤 寿昂	村井 輝	井上 昂	安藤 滉一	高村 直也	小野 貴裕	10	11
(+1.4)	10.80	10.82	10.85	10.86	11.00	11.03		
200m	聲高 健吾	小谷 哲	井上 昂	安藤 滉一	小嶋 健太郎	藤田 雄大	9	12
(+1.0)	21.58	21.96	21.97	22.04	22.23	22.40		
400m	小谷 哲	小原 幹太	水野 廉也	岩崎 誠倫	伊藤 康裕	加藤 正凌	15	6
	48.52	49.08	50.25	50.65	50.98	52.32		
800m	木村 佑	土屋 維智彦	小野 康介	坂口 諒	田中 達也	若杉 亮	13	8
	1.54.44	1.55.34	1.57.67	1.59.51	2.00.15	2.00.40		
1500m	木村 佑	近藤 秀一	清原 陸	道岡 聖	渡邊 康介	長谷川 祐輝	12	9
	3.55.56	3.56.78	3.57.19	4.22.22	4.22.68	4.22.75		
5000m	近藤 秀一	阿部 飛雄馬	原田 麟太郎	谷川 尚希	清水 厚佑	栗山 一輝	9	12
	15.03.32	15.28.06	15.30.16	15.43.54	15.43.92	15.56.28		
5000mW	後藤 潤平	高野 圭太	亀田 孝太郎	堀江 駿	保田 亜久利	馬淵 丈	10	11
	20.53.65	20.58.62	21.57.07	22.37.21	22.46.10	22.47.47		
110mH	小野 貴裕	福島 理	吉川 広祐	本田 洋平	馬上 凌	松田 光陽	15	6
(+1.5)	15.03	15.10	15.28	15.50	15.73	15.89		
400mH	五十嵐 隆皓	増田 多聞	本田 洋平	平田 泰行	長谷川 隼	松田 光陽	11	9
	55.25	55.64	55.69	56.29	56.85	DQ		
4×100mR	東京大 【聲高-小嶋-井上-村井】			京都大 【田中大-小野-安藤-加藤】			2	6
	40.88			41.57				
4×400mR	京都大 【小谷-水野-田中智-小原】			東京大 【小嶋-岩崎-坂口-松田】			6	2
	3.18.30			3.19.43				
				トラック合計			112	92
走高跳	阪口 裕飛	赤塚 智弥	木下 秀明	五十嵐 隆皓	永本 裕貴	黒川 泰暉	10	11
	1m95	1m90	1m90	1m85	1m75	1m65		
棒高跳	三宅 功朔	五十嵐 隆皓	戸部 潤一郎	石田 風太	黒川 泰暉	片渕 大成	10	11
5m05 NGR	4m00	3m80	3m70	3m40	2m80			
走幅跳	木下 秀明	伊東 悠希	村井 輝	本居 和弘	南井 航太	栗原 怜也	10	11
7m19(+0.9)	7m01(-0.5)	6m73(+0.8)	6m65(+0.4)	6m44(+0.4)	4m68(-0.3)			
三段跳	木下 秀明	三神 惇志	伊東 悠希	平木 基人	毛利 冬悟	松井 そら	10	11
14m94(+0.2)	14m36(±0.0)	14m28(-1.1)	14m15(+0.1)	13m69(-0.1)	13m50(+1.2)			
砲丸投	矢木澤 光大	佐竹 俊哉	松井 そら	中村 優太	三谷 圭	藤田 歩	7	14
	11m37	10m87	10m68	10m59	9m48	9m44		
円盤投	大橋 悟	佐竹 俊哉	矢木澤 光大	田口 広太郎	松井 そら	阪口 裕飛	9	12
44m08 NGR	33m87	31m45	30m12	29m94	25m85			
やり投	中山 奎吾	松井 そら	加藤 寿昂	石田 駿平	田口 広太郎	矢木澤 光大	15	6
	54m10	49m85	48m89	46m95	45m80	45m19		
ハンマー投	三谷 圭	大橋 悟	藤田 歩	佐竹 俊哉	中村 優太	三浦 脛士	15	6
	42m84	40m17	31m14	28m78	19m62	17m68		
				フィールド合計			86	82
				総合得点			198	174

第 17 回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会

総合優勝 東京大学（通算・東大 6 勝京大 11 勝）

総合得点

京都大学 32 点 — 東京大学 34 点

	1位	2位	3位	4位	京大の得点	東大の得点
100m (+0.5)	内山 咲良 12.70 NGR	小野 萌子 13.11	後藤 加奈 13.14	谷口 智海 13.17	5	5
400m	内山 咲良 57.96 NGR	小野 萌子 59.47	高石 涼香 59.82	後藤 加奈 1.00.98	4	6
800m	高石 涼香 2.15.65	西川 真悠 2.26.60	荒木 玲 2.29.99	安藤 百香 2.33.98	4	6
3000m	高石 涼香 10.29.34	藤原 ゆか 11.04.61	藤本 涼 11.48.96	鶴崎 涼花 12.54.67	3	7
4×100mR	京都大		東京大		4	2
	【奥村-後藤-花房-小野】		【荒木-谷口-内山-高石】			
	50.91		51.27			
			トラック合計		20	26
走幅跳	内山 咲良	林 玲美	花房 柚衣香	谷口 智海	5	5
	5m54(+2.3)	4m71(+1.2)	4m41(+0.2)	4m41(+0.5)		
砲丸投	横山 優花	中野 水貴	花渕 真生	町田 黎子	7	3
	11m02 NGR	8m68	4m90	4m75		
			フィールド合計		12	8
			総合得点		32	34

3. 東大戦詳細

<短距離>

100m (+1.4)

1 位	加藤 寿昂	(2)	10.80	PB
4 位	安藤 滉一	(4)	10.86	
6 位	小野 貴裕	(3)	11.03	

男子 100m には安藤、小野、加藤が出場した。七
大戦では東大が 3 選手とも得点したため、今回も
厳しい戦いが予想された。しかし、加藤が PB を更
新しての 1 着、安藤は怪我等で万全な準備が出来
なかった中でも集中して最善を尽くし、小野もラ
ンキングを覆すことは出来なかったが資格記録に
迫るタイムで健闘し、東大側へ傾きかけた流れを
引き戻した。(高木)



100m で優勝してチームを勢いづけた加藤
(2)

200m (+1.0)

2 位	小谷 哲	(3)	21.96	PB
4 位	安藤 滉一	(4)	22.04	
6 位	藤田 雄大	(1)	22.40	UB

男子 200m には主将である安藤(4)、小谷(3)、
藤田(1)が出場した。

安藤は院試明けで練習をつめなかったからか、
後半の追い上げができなかったが、東大の三番手
をかわして 4 位となった。

藤田は急な正補交代にもかかわらず後半追い上
げるなどの活躍をしたが、追いつけず 6 位という
結果に終わった。

小谷は前半こそ東大に劣ったものの、後半に持
ち前の 400m のスタミナを生かして、東大の井上
を追い抜いて 2 位となった。(田中大)

400m

1 位	小谷 哲	(3)	48.52	
2 位	小原 幹太	(3)	49.08	PB
3 位	水野 廉也	(3)	50.25	

この種目には小谷、小原、水野が出場した。小
谷はスタートから力の差を見せる圧倒的走りで後
続を離し余裕の 1 位でゴールした。小原も序盤か
ら積極的な走りで小谷に続き自己新を出す快走で
2 位であった。水野はラスト 100m を過ぎたところ
で東大を引き離しそのままなんとか逃げ切り 3
位でゴールした。(宇佐美)

4×100mR

2 位	田中大ー小野ー安藤ー加藤	41.57
-----	--------------	-------

相手の東大は 10 秒代の選手を 1 人抜いてのレ
ースだったので、京大側が有利だと思われた。号
砲がなると、1 走の田中(1)がいいスタートを切
り、東大の一走に引けを取らない走りをした。し
かし続く 2 走、小野(3)の区間では東大の 2 走が速
く、差をつけられてしまった。その後も 3 走の安
藤(4)や、100m で PB を更新した、4 走の加藤(2)

が追い上げようとするも、東大に追いつくことはできず、2着でゴールした。東大の層の厚さがうかがわれるレースとなった。(湯谷)

4×400mR

1位 小谷—水野—田中智—小原 3.18.30

東大戦の最終種目となった4×400mR。1走の小谷は400mと200mに続き、この日3本目のレースとなったが、東大に大きな差つけてバトンを渡した。2走の水野は足に不安を抱えていたが、不安を払拭する走りでもリードを保ったまま3走に繋いだ。3走の田中智は前半いい走りだったが、最後の直線で東大に詰められると、4走とのバトンパスでもたつく間に東大に抜かれた。しかし4走の小原が東大の後ろにぴったりと付くと、ラストスパートで東大を差し切り、1着でゴールした。(犀川)

女子 100m (+0.5)

2位 小野 萌子 (4) 13.11

3位 後藤 加奈 (3) 13.14 PB

京都大学からは小野(4)と後藤(3)が出場した。まずスタートで、東大の2選手が飛び出した。東大・内山はスピードに乗り、そのまま独走したが、京大・小野が中盤でスピードを上げ、前を行く東大の2番手を抜き去った。更に、京大・後藤もラスト手前で粘りを見せて東大の2番手をかわした。結局、小野が2位、後藤が3位となった。(堀葉)

女子 400m

2位 小野 萌子 (4) 59.47 PB

4位 後藤 加奈 (3) 1.00.98

小野(4)と後藤(3)は女子400mに出場した。小野は陸上人生ラストレースでこれまでの集大成となるためこのレースにかける思いは強く、それに対し後藤は最後まで先輩である小野に勝ちたいという思いがあった。2人の目標はワンツーでゴールすることであった。スタートと同時に勢いよく走り出し、200m通過で小野は後藤より少し前を走り序盤から4回生らしい積極的な走りを見せた。東大の一番手が小野より先に200mを通過し、小野の少し後ろを走っていた東大の高石がラスト追い上げたが、小野は逃げ切り2着でゴールした。後藤は、200mを後藤より1秒遅く通過した。少し前を走る東大の高石に食らいつくが、追いつけず後藤は4着でゴールした。目標を達成することはできなかったが、小野はラストレースでPBを更新し後藤も最後まで諦めない粘り強い走りを見せた。(上島)

女子 4×100mR

1位 奥村—後藤—花房—小野 50.91

女子の最終種目であった。1走の奥村(1)が東大の1走に競り勝つような走りをして、バトンも上手く繋がった。続く出場3種目目の後藤(3)は後半伸びる走りでその差を守る。3走の花房(2)も力走を見せるが、100m、400mで大会新記録を樹立した東大3走が速く、抜かれてしまった。しかし、こちらも出場3種目目の小野(4)が意地を見せ、東大を抜き返して1着でゴールした。熱い展開のレースであった。(田中大)

<ハードル>

110mH (+1.5)

1位 小野 貴裕 (3) 15.03

2位 福島 理 (4) 15.10 PB

3位 吉川 広祐 (3) 15.28

男子 110mH には福島、小野、吉川が出場した。小野は前半から福島とともにトップに立ち、東大勢を大きく引き離して優勝した。福島は小野と競りながら PB を更新して 2 位に入った。吉川は東大勢から最後まで逃げ切り、3 位に入った。事前ランキングを覆し、見事スコנקを達成した。(永田)

400mH

1 位 五十嵐 隆皓(4) 55.25
4 位 平田 泰行 (4) 56.29
5 位 長谷川 隼 (2) 56.85

トラック最初の種目となった男子 400mH には平田、五十嵐、長谷川が出場した。事前ランキングでは京大の 3 選手が 1~3 位を占めており、スコנקが期待されたが、序盤から飛ばしてきた東大に動揺したのか思い描いたレース運びができず、五十嵐は 1 着を死守したものの平田が 5 着、長谷川が 6 着と、波乱の幕開けとなった。しかし抗議の結果、東大の選手 1 名が失格となり、なんとか勝ち越した。(高木)



400mH だけでなく走高跳と棒高跳でも活躍した五十嵐(4)

< 中距離 >

800m

1 位 木村 佑 (2) 1.54.44
2 位 土屋 維智彦 (3) 1.55.34
5 位 田中 達也 (4) 2.00.15

男子 800m には田中(4)、土屋(3)、木村(2)が出場した。事前ランキングは 1 位、2 位、6 位であり、この種目ではランキング通り以上の得点をすることを目標とした。レースは木村が引っ張る展開となり、1 周目は 57 秒で通過。ラスト 300m 地点で木村土屋を含む 3 人の先頭集団と田中を含む 3 人の後方集団とに別れた。ラストは木村が貫禄のスパートを見せつけ 1500m との二冠を果たし、土屋も見事東大の 1 番手を引き離して 2 位となった。田中もラストで東大の 3 番手に競り勝ち、事前ランキングをひっくり返す好走を見せた。

こうして男子 800m ではランキングの順位を一つ返して目標を達成した。(岡本郁)



1500m と 800m で二冠した木村(2)

1500m

- | | | | | |
|-----|-------|-----|---------|----|
| 1 位 | 木村 佑 | (2) | 3.55.56 | PB |
| 3 位 | 清原 陸 | (2) | 3.57.19 | |
| 5 位 | 渡邊 康介 | (4) | 4.22.68 | |

男子 1500mには渡邊、木村、清原の 3 人が出場した。実力が大きく離れていたことからか、東大の近藤が引っ張り清原、木村がつくハイペースな先頭グループと、東大の他の 2 人が引っ張り渡邊がつく、スローペースな 4 位グループに大きく分かれることとなった。先頭集団はそのままの展開を保ったままラスト 200mに入り、木村がスパートをかけ、ランキングを覆し 1 着でゴール。清原は最後の直線で追いつけたものの惜しくも及ばず 3 着でゴールした。一方、スローペースの集団でレースが進む中、渡邊は最後の 1 周に入ったところでスパートをかけ、集団の先頭に立った。最後に 1 人に競り負けたものの、ランキングを 1 つ覆し、5 位でゴールした。(前田裕)

女子 800m

- | | | | | |
|-----|-------|-----|---------|--|
| 2 位 | 西川 真悠 | (1) | 2.26.60 | |
| 4 位 | 安藤 百香 | (2) | 2.33.98 | |

女子 800m には西川と安藤が出場した。予想通りスタートから東大の高石が一人で独走する展開となった。それに続いて西川が単独 2 位となり、安藤と東大の 2 番手が激しい 3 位争いを繰り広げた。安藤は 400m 手前までは並んでいたがそこから徐々に離され始め 500m 地点で完全に離されてしまった。西川は最後までしっかりと逃げ切り 2 位を守った。(宇佐美)

<長距離>

5000m

- | | | | | |
|-----|--------|-----|----------|--|
| 3 位 | 原田 麟太郎 | (3) | 15.30.16 | |
| 4 位 | 谷川 尚希 | (3) | 15.43.54 | |
| 5 位 | 清水 厚佑 | (1) | 15.43.92 | |

男子 5000m には、原田、谷川、清水厚が出場した。スタート後、東大の近藤が飛び出て独走状態となり、間を少し開けて残りの 5 人が集団を形成した。栗山(東大)、原田、阿部(東大)、清水、谷川の順でくっついた状態で 3800m まで進む。

3800m を通過すると、原田が勝負を仕掛け、飛び出る。それに阿部、谷川も続く。清水、栗山も続こうとするが、途中で集団から離れ栗山は徐々に清水からも離れていった。2 位集団は、原田の少し後ろで谷川と阿部の接戦になった。その後、阿部は原田との差を縮め、ラスト 200m では原田に追いつき、お互いにスパートをかけるも、ラスト 100m で原田は阿部に抜かれ、ゴール。それに続いて、谷川、清水もゴールした。原田が最後に勝負を仕掛けレースを動かしたことで、非常に見ごたえのあるレースとなった。

女子 3000m

3 位 藤本 涼 (1) 11.48.96 UB
4 位 鶴崎 涼花 (1) 12.54.67 自身初

女子 3000m には藤本(1)、鶴崎(1)が出場した。スタート直後から、10 分台の好記録を持つ東大の高石(4)、藤原(4)に先行され、藤本、鶴崎共にその後ろをそれぞれ単独で走る展開となった。そのままゴールし 2 人は 3、4 位となったが、2 人とも前半積極的な走りを見せ、藤本は大学新、鶴崎は大学初ながら練習でのタイムを大きく上回った。(西川)

< 競歩 >

5000mW

2 位 高野 圭太 (4) 20.58.62
3 位 亀田 孝太郎 (3) 21.57.07
6 位 馬淵 丈 (1) 22.47.47 PB

高野圭太(4)亀田孝太郎(3)馬淵丈(1)は男子 5000mW に出場した。まず高野の目標は優勝、亀田は 3 位、馬淵は東大の 3 番手に食らいつきラストで突き放し 5 位をとることであった。まず高野は前半まで東大の 1 番手後藤の後ろに付いていたが、3000m 過ぎたあたりから高野は後藤のラップが落ちてきていたことに気づき、スピードを上げ少し引き離れた。しかし、それほど高野に余力が残っていなかったことから徐々に差を詰められ、ラストでは後藤のペースについていけず 2 着でゴールとなった。亀田は 3500m あたりまで東大の堀江と並んで歩き、3 位争いをしていていたが、東大に注意が出されたタイミングで亀田が一気に仕掛けると、突き放しに成功し、その後も最後まで差を詰められることなく、亀田は一度も注意、警告されることなく 3 着でゴールし、目標を達成した。

1 回生の馬淵は、相手に精神的、体力的疲労を与えることを狙い、東大 3 番手の右後方についた。中盤まで並んで歩いていたが、相手のタイムが明らかに落ちた瞬間を見逃さず、余裕はなかったが積極的に勝負に出た。しかし、すぐに東大に差を詰められるが、離れることなくついて行った。ラストで余裕のなかった馬淵は東大に離され 6 着でゴールした。目標の 5 位は達成できなかったが、1 回生で経験も少ないのにも関わらず、冷静に判断し最後まで粘り強いレースを見せ、自己ベストを更新した。(上島)

< 跳躍種目 >

走高跳

1 位 阪口 裕飛 (1) 1m95
4 位 五十嵐 隆皓 (4) 1m85
6 位 黒川 泰暉 (1) 1m65

男子走高跳には五十嵐、黒川、阪口の 3 名が出場した。五十嵐は 1m50、黒川は 1m50、阪口は 1m90 から競技を始めた。五十嵐は 400mH が終わった直後の試合で両足に負担がかかっていた中、自己ベストである 1m85 まで難なく成功した。次の 1m90 は失敗に終わったが、次の棒高跳へ勢いづける跳躍を見せた。黒川は 1m65 まで一発で成功するも 1m70 は一度も跳べず、6 位で終了した。阪口は 1m90、1m95 を 1 回目で難なくクリアした。続く 2m00 は失敗に終わったが、東大の選手は、試技を終了していたので、1 位で終了した。この種目で京大は 10 点を獲得した。(久田)

棒高跳

2 位 五十嵐 隆皓 (4) 4m00 PB
4 位 石田 風太 (1) 3m70
5 位 黒川 泰暉 (1) 3m40

男子棒高跳には五十嵐、石田、黒川が出場した。事前のランキングでは五十嵐、黒川が2位、石田が5位であった。

安全策をとり、石田が3m20、黒川が3m40、五十嵐が3m60からスタート。それぞれ1回目で成功させ、石田と東大の2番手が3m60を成功し、黒川が3m60を失敗したところで、黒川は3m70にバーをかけ勝負に出る。石田は3m70を3回目で成功させたが、黒川は体が流れてバーに当たってしまい2回目とも失敗し、競技終了。五十嵐は3m80を一回で成功するも、石田は疲労からか跳躍のキレが悪くなり、3回失敗。続く五十嵐は3m90を1回目で成功し、この高さをパスした東大の選手にプレッシャーをかけた。その後、東大の選手は4m00を3回とも失敗するも、五十嵐は3回目で成功。応援していた選手らを大きく盛り上げた。

今回の事前ランキングは京大が11点を獲得する予定だったが、実際は10点にとどまった。しかし、石田がPBタイ記録を出し、さらに五十嵐が多種目出場にも関わらずPBとなる4m00を跳んだことにより、京大の応援席は大きく盛り上がった。そのことを考えると、「試合に負けて、勝負に勝った」と言うこともできるであろう。(増尾)

走幅跳

2位 伊東 悠希 (4) 7m01(-0.5) PB
4位 本居 和弘 (3) 6m65(+0.4)
5位 南井 航太 (3) 6m44(+0.4)

男子走幅跳には、伊東、本居、南井が出場した。本居は、踏み切りで浮けず、3本目の記録

6m65にとどまった。南井は2本目で6m44を出した後、5本目で助走を中断し、6本目に記録を狙ったが2本目と同じ記録となった。伊東は1本目で記録を残した後、2、3本目をパスし、4本目ではファールであったが、5本目で7m越えの自己新を出し、勝負強さを見せた。全体としては事前ランキングを4点分覆した。(岩井)

三段跳

2位 三神 惇志 (3) 14m36(±0.0)
3位 伊東 悠希 (4) 14m28(-1.1)
6位 松井 そら (3) 13m50(+1.2)

男子三段跳には伊東、三神、松井が出場した。

十種を専門とする松井はやり投げと同時出場であった。事前ランキングは6位。早めに記録を残して得意のやり投げに行く予定が、うまく足が合わず1、2本目をファールしてしまう。それでも3本目に13m手前をマークし1点を確実にした。そのあとパスを続けやりに集中し、6本目に13m50と記録を伸ばすが、惜しくも5位には届かなかった。

三段跳の前に行われた走幅跳でPBの7m01をマークし好調の伊東は4本目に14m28を記録し、3位となった。成功した跳躍3本とも14m越えで、安定した試合運びであった。

事前ランキング1位の東大、木下が大ジャンプを見せる中でそれを追いかける三神は前半の3本すべてファールと苦戦を強いられていた。怪我明けで跳躍練習を積めていなかったせいかわりに、助走が合わなかった。しかしここで記録が残っていない三神がまさかの4本目パス。もう後がない5本目、14m36をしっかりとマークし2位につけ、勝負強さを見せつけた。三人ともランキングを死守した形になったこの種目。本格的に練習を積めるようになった三神のさらなる飛躍と、

今回は出場できなかったものの記録を伸ばし続ける一回生の2人の活躍によってこの先も盛り上がりを見せるだろう。(阪口)

女子走幅跳

- 2 位 林 玲美 (4) 4m71(+1.2)
3 位 花房 柚衣香(2) 4m41(+0.2)

女子走幅跳には、林、花房が出場した。花房は、練習の機会が少なかったこともあり助走を合わせるのに苦労したが、3位の記録を残した。林は1本目から4m後半の記録を出し、その後も調子を上げていき、4本目で自己新タイの4m71を跳んだ。男女走幅跳は4回生が試合を盛り上げた。(岩井)

<投擲種目>

砲丸投

- 3 位 松井 そら (3) 10m68 PB
5 位 三谷 圭 (3) 9m48
6 位 藤田 歩 (2) 9m44 PB

男子砲丸投には松井(3)、三谷(3)、藤田(2)が出場した。エントリー記録では上位を東大に独占されていた種目ではあったが、練習投擲では松井が11m近くの投擲を見せ、混戦が予想された。2投目に松井が10m68の自己ベストを出し、この記録を東大の3番手の選手は超えることができず、事前ランキングを覆して3位に入った。専門外の三谷も1投目に9m48を投げ、藤田も自己ベストを3度更新したものの、5位と6位に終わった。(澤田)

円盤投

- 1 位 大橋 悟 (3) 44m08 NGR
5 位 松井 そら (3) 29m94

- 6 位 阪口 裕飛 (1) 25m85 自身初

男子円盤投げには大橋、松井、阪口の三人が出場した。大橋はランキングから優勝は間違いなく、一投目、二投目では滑りながらも40m近い記録を出し、圧倒的な実力を見せた。その後四投目で40mを超え、最終投擲となる六投目では44m08と大きく記録を伸ばし、見事に大会新記録を更新した。松井は東大の三人と近い記録を持っており、ぜひ競り勝ってほしいところであったが一投目以降なかなか記録を伸ばすことができなかった。六投目では意地を見せこの日一番の記録となる29m94を出したものの東大の記録を抜かすことができず、残念ながら5位に終わった。阪口は走り高跳びが専門ながら今回円盤投げに出場してくれた。途中ターンを試すなど試行錯誤しながら五投目、六投目で記録を伸ばし、25m85という記録を残した。京大はこの種目で1位、5位、6位となり、9点を獲得した。(山野)

ハンマー投

- 1 位 三谷 圭 (3) 42m84
2 位 大橋 悟 (3) 40m17
3 位 藤田 歩 (2) 31m14

男子ハンマー投には大橋(3)、三谷(3)、藤田(2)が出場した。

三谷は1投目から40mを超え東大を圧倒し、3投目41m台、6投目42m84と記録を伸ばしながら優勝を決めた。大橋は3投目に40m超えの投擲を見せ、七大戦と同様に三谷とのワンツーとなった。藤田は自己ベストの更新はならなかったものの東大の1番手をしっかり押さえ、京大勢のスコンクに貢献した。

こうして今大会最初のフィールド種目となる男子ハンマー投でスコンクを果たしたことで総合優

勝への流れを作った。(岡本郁)



円盤投だけでなくハンマー投でも活躍する大橋(3)

やり投

- 1 位 中山奎吾 (4) 54m10
- 2 位 松井 そら(3) 49m85
- 3 位 加藤 寿昂(2) 48m89 UB

男子やり投げには中山、松井、加藤の三人が出場した。中山は肩を痛めており、全力で投げることはできない状態であったが、54m10 の記録を出し、四回生の貫禄を見せた。松井は三段跳と平行して競技を行うことになり、しかも四種目の出場ということで疲れも溜まっているところではあったがしっかりと 50m 近い記録を出し東大を寄せ付けなかった。加藤は本職である 100m で優勝しており、その勢いそのままに 48m89 と好記録を出した。この種目で京大は見事スコנקを達成した。(山野)

女子砲丸投

- 1 位 横山 優花 (4) 11m02 PB

蒼穹新

NGR

- 2 位 中野 水貴 (2) 8m68

女子砲丸投には横山(4)、中野(2)が出場した。東大は 1 年生の中距離専門の選手がエントリーしていたため、各々の記録との勝負となった。横山は 1~3 投目をすべて 10m50 程度の高いアベレージで投げ、4 投目に 11m02 の蒼穹新記録を投じた。その後も記録の更新を狙う気合の入った投擲を見せたが、これが最高記録となった。中野は惜しい投擲を何度も見せるも 3 投目の 8m68 が最高で、自己記録の更新とはならなかったが、危なげない勝負を見せた。(澤田)



砲丸投を大会新で優勝した横山(4)

4. 東大戦 OP 結果

男子

▼800m

紀平 直人 1.54.16

5. 応援にお越しいただいた

OB・OGの方々

御名前	御卒業年度
井街悠様	賛助会員
徳廣桂三様	S 3 3
本多了様	S 3 4
渥美保様	S 3 5
三島宏夫様	S 3 5
山崎稔様	S 3 6
高林藤樹様	S 3 6
高林知子様	S 3 6
市川哲様	S 3 8
鯉谷忠夫様	S 4 1
藤原忠義様	S 4 1
森本正幸様	S 4 1
吉田基様	S 4 2
吉田美代子様	S 4 2
山本和賢様	S 4 3
勝村弘也様	S 4 4
櫻井博之様	S 4 4
染川武将様	S 4 5
竹治進様	S 4 5
井上達郎様	S 4 7
沼野正義様	S 4 7
林純一様	S 4 7
吉田昭廣様	S 4 7
中村茂夫様	S 4 8
池本忠司様	S 4 9
池田康博様	S 5 1
桂総一郎様	S 5 1
森正治様	S 5 1
宮下欣二様	S 5 1
真野勝文様	S 5 3

原仁史様	S 5 3
三好稔彦様	S 5 4
重村充男様	S 5 4
清水智志様	S 5 7
熊谷元様	S 5 9
安藤信夫様	S 6 1
矢内純太様	H 2
渡辺駿様	H 2 5
庄司真様	H 2 6
下迫田啓太様	H 2 7
寶雄也様	H 2 7
櫻井大介様	H 2 7
松葉悠剛様	H 2 7
豊本竜希様	H 2 7
岡本和晃様	H 2 7
橋本浩法様	H 2 7
新田一樹様	H 2 7
佐藤啓太様	H 2 8
松岡茜様	H 2 8
山木田雅様	H 2 8
足立涼様	H 2 8
川崎皓斗様	H 2 9
竹田風馬様	H 2 9
河村一輝様	H 2 9
井上裕美子様	H 2 9

6.新主将挨拶

この度、新たにこの 1 年間、主将を務めさせていただくことになりました、三神惇志です。

今年度を振り返りますと、堅実な目標を着実に達成してきたことの積み重ねが多かったように思えます。その成果の一つとして、事前ランキングを大きく覆しての男子の関西インカレ残留という結果が現れたと思います。一方で、七大戰の男女優勝、東大戦での女子優勝は逃してしまいました。今年もまた、力のある院生、4 回生が抜けられますが、その穴を埋めて余りある程の成長を遂げ、来年度、今年取り逃した優勝杯を奪還し、そして男子は関西インカレ 40 点、女子は全員の関西インカレ標準突破という目標を達成する所存でございます。

部員一同、これらの目標達成のために一丸となって努力を重ねていきますので、どうか蒼穹会の皆様におかれましては、これまでの私たちへのご理解、お力添えに改めて感謝を申し上げるとともに、今後とも変わらぬご支援、ご声援のほどを、よろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部新主将 三神 惇志

7.新幹部紹介

主将、跳躍パートチーフ	三神 惇志
女子主将	後藤 加奈
副将、中距離パートチーフ	土屋 維智彦
副将	松井 そら

短短パートチーフ	西脇 友哉
短長パートチーフ	小原 幹太
ハードルパートチーフ	小野 貴裕
長距離パートチーフ	原田 麟太郎
競歩パートチーフ	亀田 孝太郎
投擲パートチーフ	大橋 悟
混成パートチーフ	平島 敬也
マネージャーチーフ	西垣 里桜

主務（学連担当）	谷川 尚希
主務（渉外担当）	平中 章貴
主務（体育会担当）	吉川 広祐



蒼穹ニュース 平成30年度 第6号
平成30年10月2日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：宇佐美岳良・堀葉俊春・久田雅人（副務）
特別協力：秋本啓太・三田村侑紀・山口佳那子（学連員）
加藤寿昂・長谷川隼（記録係）・浅井良（HP 係）
写真担当：花房柚衣香・上島ほのか・岡本郁翔

陸上競技部 HP	http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/
陸上競技部記録 HP	http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku/index.htm
関西学連 HP	http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm
メールアドレス	strongthrowakiyama@gmail.com（堀葉）